

みんなの大和ミュージアム

— みんなで使う場所でのマナー —

- 1 学年 第2学年 [前期]
 2 主題名 マナーをまもって[4-(1)]
 3 ねらい 初めて訪れた大和ミュージアム館内で、周囲を気遣わないだろうの行動について考えることを通して、みんなが使う場所等では約束やきまりを守り、気持ちよく使うようにしようとする態度を育てる。
 4 資料名 「みんなの大和ミュージアム」
 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 「大和ミュージアム」について話し合う。 ○ 「大和ミュージアム」を知っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 行ったことあるよ。 知っているよ。 	○ ミュージアムの写真を提示して資料への興味付けをする。
展 開	2 資料「みんなの大和ミュージアム」を読んで話し合う。 ○ 初めて「大和ミュージアム」に行くたろうはどんな気持ちだったでしょう。 ○ 「大和ミュージアム」の展示物を見学するたろうはどんな様子でしたか。 ◎ 男の人にあやまっているお母さんを見て、たろうはどんなことを考えたでしょう。 3 公共施設などでのマナーや気持ちのよい使い方について話し合う。 ○ みんなが使う場所にはどんなところがありますか。またその場所をどのように使っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> どんなところかな。 早く行きたい。 面白いものが色々あるので楽しみ。 走り回って見学している。 お母さんから離れ、一人で勝手に行っている。 人がいても割り込んでみている。 走り回ってはいけなかった。 大きな声を出してしまった。 他の人に迷惑をかけた。 たくさんの人がいたのに悪かった。 公園の遊具などを大切に使う。 きまりを守って使う。 他の人に迷惑をかけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初めて大和ミュージアムに行くことでわくわくしているたろうの気持ちをしっかりとつかませる。 ○ 館内でマナーが守れていないたろうの様子を考えさせる。 ○ ワークシートに書かせることで、公共施設ではどう行動したらよいかを一人一人にしっかり考えさせる。 ○ 身の回りの公共施設をいくつか確認し、そこでのマナーや心構えについて考えさせるようにする。
終 末	4 教師の話聞く。		○ 乗り物の中でのマナーについて、気持ちよく過ごせた体験談を話す。

6 授業の概要

(1) 主題について

本主題は、低学年の内容項目 [4 - (1)] 「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切に。」をもとに設定した。児童は、多くの人々や公共の施設などに囲まれて社会生活を送っている。だれもが気持ちよく生活するためには、きまりや人として守るべきマナーが必要となる。小学校の低学年は、自己中心性が強く、自分本位な行動になりやすい。また、この時期には、図書館や公園など公共施設に出かける機会も増え、そこでの様々な約束やきまりを知り、守ろうとする態度を育てることが大切であると言える。自分だけの都合で行動するのではなく、社会生活や集団生活を快適にしていくために、他者に迷惑をかけない心構えをもたせる等、規範意識の涵養を図りたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用する時期や関連教科

遠足や校外学習など等の事前指導と関わらせて扱うことが考えられる。また、生活科の学校や地域と自分の生活、公共物や公共施設の利用についての学習も関連させて指導することができる。

イ 中心場面や考えさせたい内容

児童は、初めて訪れる楽しみな場所では、たろうのようにうれしさのあまり、自分勝手に行動してしまう場合がある。そのような児童の気持ちを出させながら、公共の場所では守るべきマナーがあることに気付かせたい。また、日頃遊んでいる公園等で、これまでに自分がどのように行動しているか、自分自身を振り返らせたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

大和ミュージアムは、呉市の代表的な施設の一つであり、児童にとって身近に感じることのできる場所であるため、導入の際に建物の外観や展示物の写真等を見せることによって児童の興味・関心を高めたい。

イ 展開における学習活動の工夫

主人公たろうの気持ちにそって考えさえるようにしたい。中心発問でみんなが使う公共施設ではどのように行動しなければいけないかを深く考えさせるために、ワークシートに自分の考えを書かせてみるのもよい。

ウ 振り返りの工夫

展開後段では、まず、身近な公共施設にはどんな所があるかを考えさせたい。本資料では大和ミュージアムを取り上げているが、毎日のように遊んでいる公園等もみんなが使うものであり、約束やきまりを守って使うべき場所であることを考えさせたい。公園等で何気なくしていたことについて、きまりを守っていなかったり、他の人の迷惑になっていたりしていなかったかを振り返らせたい。そして、これからどのように使っていったらよいかについても考えさせるようにしたい。

エ 終末について

資料の最初の部分に、たろうがバスの中でも騒いでしまい、お母さんにたしなめられる場面を取り上げながら愛情があるからこそそのきびしい言葉であること等、親としての思いを説話の内容として扱うことも考えられる。

(白岳小学校 瀧上敬子)